横浜いずみ台病院広報誌

あやめ

2015年 2月発行

横浜いずみ台病院は、地域に根ざした医療を実践してまいります。

第１８号　もくじ

１ページ　もくじ	４ページ　　これってどんな病気？
２ページ　病院理念・院長挨拶	５，６ページ　　院内イベント
３ページ　診療案内（外来担当医表）	７ページ　　お知らせ

病院理念

私たちは地域の皆さんが安心して生活できる社会を実現するために、医療の質の向上、患者さん中心の医療、地域に根ざした医療を実践します。

病院基本方針

・患者さん中心の医療を実践し、患者さん及びご家族と緊密な意思疎通を図ります。

・医療の質の向上に努め、日々研鑽し、地域医療に貢献します。

・慢性期病院として、急性期病院、介護施設と協同し地域の支えとなります。

・職員同士が思いやりの心を持ち、明るく結束力のある職場づくりを心がけます。

・利益を地域社会と職員に還元できるよう、経営基盤を安定させます。

院長挨拶

当病院は平成 14 年 4 月にひなた山から移転、平成 23 年 3 月の増床・増築後は、歯科も含めた外来部門、160 床の入院ベッドのほか透析センターを併設する現在のかたちとなり、今日に至っております。
外来部門は、「地域のかかりつけ医」的な役割を担ってまいりたいと考えております。どんな症状でも、また、何科に行けばいいのか分からない場合なども一度受診してみて下さい。然るべき専門医の紹介など適宜行ってまいります。また、往診・在宅医療におきましても地域の皆様の力になりたいと思っております。通院が困難な場合などはご相談ください。関連の訪問看護事業所と協力して対応させていただきます。
入院病床は、外来からの入院や通院透析が困難な患者様のほか、他の病院で急性期を過ぎた患者様を主体に受け入れております。
急性期に入院した病院で治療が一段落しても、まだ療養が必要と思われる場合や、直接自宅に帰ることが困難な場合など一度ご相談下さい。老人保健施設・グループホーム・小規模多機能施設・在宅型有料老人ホームなどの関連施設の中から病状にあった施設への橋渡しも含め対応させていただきます。
平成 26 年 10 月には日本医療機能評価機構による認定を取得、今後も引き続き質の高い医療を心がけ、地域医療に貢献してまいりたいと思っております。

診療案内

担当医表

		月	火	水	木	金	土
午前	1診	那須	岡本	飯澤	井上	那須	渡部
	2診	丸岡	那須	保坂	飯澤	渡部	丸岡
	3診	藤山 （専・整）		須藤 （専・心）	—		—
午後	1診	吉田	井上	渡部	丸岡	吉田	—
	2診	渡部	飯澤	岡本	吉田 （専・消）	井上	—
	3診	藤山 （専・整）	渡辺 （専・成人病）	須藤 （専・心）	—		—
午前午後	歯科	金原 風間 東	金原 風間	風間 東	金原 東	金原 風間 東	金原 風間 東

診療科目　内科　消化器科　循環器科　外科　整形外科　歯科

受付時間　月～金　AM ９：００～１１：３０　PM １：３０～４：３０
土　AM ９：００～１１：３０　PM　歯科のみ診療（１：３０～４：３０）

これってどんな病気？

―摂食嚥下障害―

　私たちが日常生活の中で、ごく当たり前に何気なく行っている口で食べる・栄養を摂るということ。
これは私達人間が生きる上で欠かすことのできない営みであり、またどの生物にもそなわる本能です。
この行動ができなくなることを摂食嚥下障害といいます。
　摂食嚥下障害とは食べ物や飲み物をうまく飲み込めなくなる障害で、様々な何らかの原因からなるものです。重篤になるにつれ脱水症状や低栄養、あるいはうまく取り込めないことによる誤嚥・誤嚥性肺炎・窒息などへとつながることがあります。具体的な摂食嚥下障害の要因は大きく分けて器質的要因(脳を含む体のどこかが損傷を受けた結果不具合が生じている状態)と機能的要因(特にどこにも損傷がないが，正しく機能しない状態)とに大別され、ときにはその両方が複合して摂食嚥下障害を引き起こしていることがあります。また、からだの経年変化とともに、かつては機能的とされた障害も後年になって器質的な障害に変わる可能性があります。したがって、ひとえに口で食べると言ってもその行動を実現するためには眼球・口腔・咽頭・脳・手や足・全身の筋肉・肺やその他(腸管から排出されるまでの全過程まで)などの重要器官が連携しなければ成し得ないものであります。
　摂食嚥下障害に対してはリハビリや嚥下訓練などの機能訓練を主として改善に取り組んでいきます。全身疾患に起因する摂食嚥下障害の場合では投薬により改善することもあります。いずれの場合においても短期間で摂食嚥下に関わる機能が劇的な回復を多く見込むことはできません。機能訓練の反復練習を繰り返し、喪失したその機能を呼び戻すため長期的な時間が必要となります。
　しかしながら、一度損なわれてしまった、あるいは低下してしまった嚥下機能は機能訓練をしても回復しないことがあります。そのようなケースでは代償的な摂食ルート(方法・姿勢・食形態・量・時間・回数など)を見つけ出すことが重要になります。
　最終的なゴールが、必ずしも今まで生活していた通りの経口摂取や食事形態になるということが正解ではありません。現在の既往や病状・病態に応じた安全で安心な広義での摂食形態を、摂食嚥下機能が多種多様な連携機能であるように、医療従事者も多職種で連携し探していくことが医療現場では重要な場面であると考えます。

横浜いずみ台病院　　歯科診療室　　東　裕智

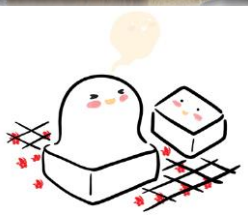
院内イベント

毎年恒例の餅つき・キャンドルサービスに加え、新たにボランティアを起用しハンドベルの演奏会を行ってもらいました。本格的なハンドベルを見るのは皆様はじめてで、興味津々でした！

ハンドベル演奏会

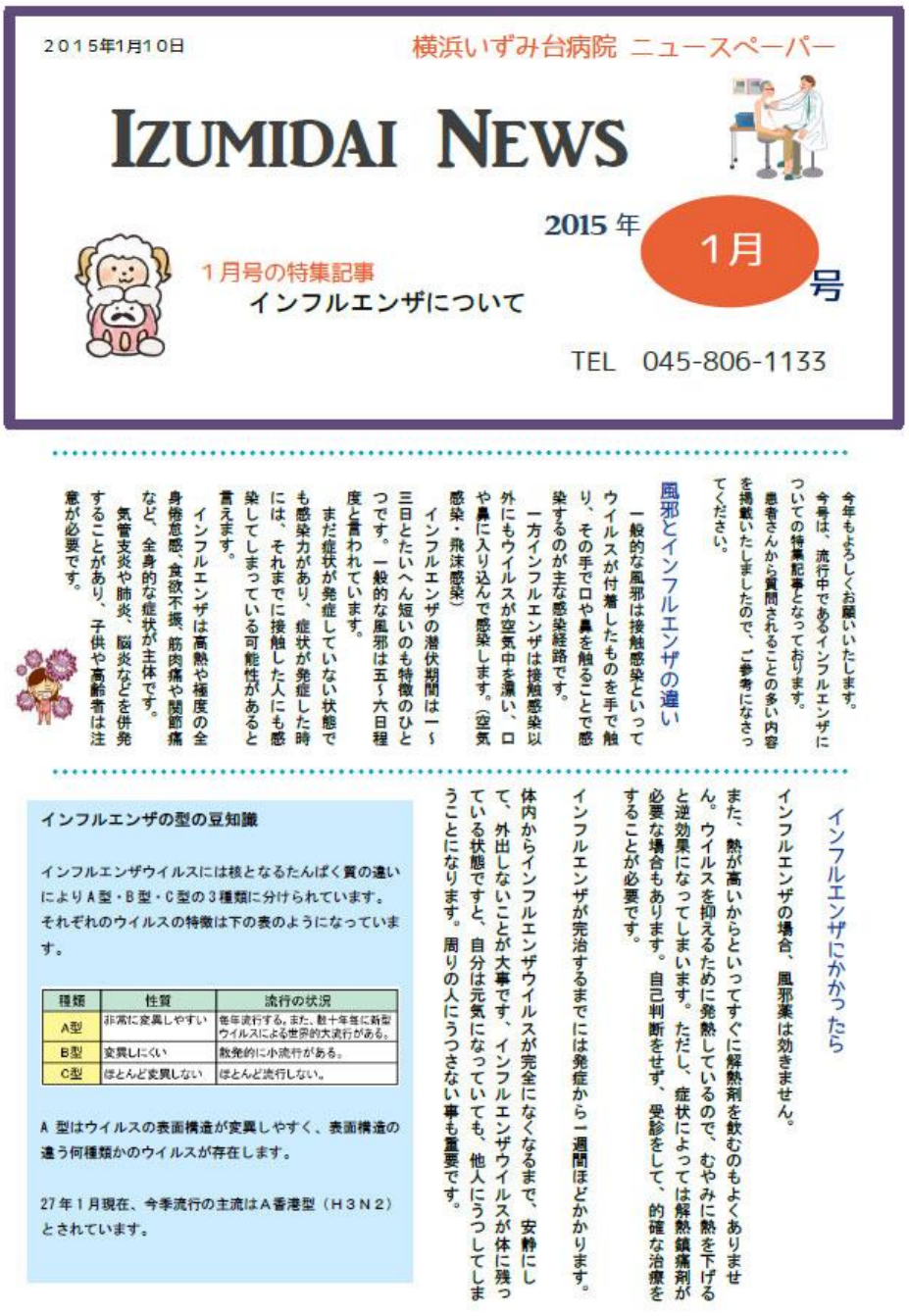
キャンドルサービス

餅つき



Izumidai News　発行のお知らせ

昨年 10 月より、当院からのお知らせや健康に関する様々な内容をお伝えする
ニュースペーパーを毎月１０日前後に発行しております。
待合室パンフレットラックに最新号をご用意しておりますので、ご利用ください。
（なお、ブログ http://izumidai.net/blog/　にて発行のお知らせを掲載しており
そちらからダウンロードしていただくことも可能です。）
今後も、病院からのお知らせを皆様にわかりやすく提供してまいります。



２０１５年1月１０日　横浜いずみ台病院 ニュースペーパー

IZUMIDAI NEWS

2015 年 1月 号

１月号の特集記事
インフルエンザについて

TEL　045-806-1133

今年もよろしくお願いいたします。
今号は、流行中であるインフルエンザについての特集記事となっております。
患者さんから質問されることの多い内容を掲載いたしましたので、ご参考になさってください。

風邪とインフルエンザの違い

一般的な風邪は接触感染といってウイルスが付着したものを手で触り、その手で口や鼻を触ることで感染するのが主な感染経路です。
一方インフルエンザは接触感染以外にもウイルスが空気中を漂い、口や鼻に入り込んで感染します。（空気感染・飛沫感染）
インフルエンザの潜伏期間は一～三日とたいへん短いのも特徴のひとつです。一般的な風邪は五～六日程度と言われています。
まだ症状が発症していない状態でも感染力があり、症状が発症した時には、それまでに接触した人にも感染してしまっている可能性があると言えます。
インフルエンザは高熱や極度の全身倦怠感、食欲不振、筋肉痛や関節痛など、全身的な症状が主体です。
気管支炎や肺炎、脳炎などを併発することがあり、子供や高齢者は注意が必要です。

インフルエンザにかかったら

インフルエンザの場合、風邪薬は効きません。
また、熱が高いからといってすぐに解熱剤を飲むのもよくありません。ウイルスを抑えるために発熱しているので、むやみに熱を下げると逆効果になってしまいます。ただし、症状によっては解熱鎮痛剤が必要な場合もあります。自己判断をせず、受診をして、的確な治療をすることが必要です。
インフルエンザが完治するまでには発症から一週間ほどかかります。
体内からインフルエンザウイルスが完全になくなるまで、安静にして、外出しないことが大事です。インフルエンザウイルスが体に残っている状態ですと、自分は元気になっていても、他人にうつしてしまうことになります。周りの人にうつさない事も重要です。

インフルエンザの型の豆知識

インフルエンザウイルスには核となるたんぱく質の違いによりＡ型・Ｂ型・Ｃ型の３種類に分けられています。
それぞれのウイルスの特徴は下の表のようになっています。

種類	性質	流行の状況
A型	非常に変異しやすい	毎年流行する。また、数十年毎に新型ウイルスによる世界的大流行がある。
B型	変異しにくい	散発的に小流行がある。
C型	ほとんど変異しない	ほとんど流行しない。

Ａ 型はウイルスの表面構造が変異しやすく、表面構造の違う何種類かのウイルスが存在します。

27 年１月現在、今季流行の主流はＡ香港型（Ｈ３Ｎ２）とされています。

広報誌「あやめ」
第１８号
2015 年 2 月

横浜いずみ台病院
〒245-0016　横浜市泉区和泉町 7838
電話：045-806-1133（代）　FAX：045-806-1132
ホームページ：http://izumidai.net/
発行：横浜いずみ台病院 情報委員会